

会 議 記 録

| | |
|------|--|
| 会議名称 | 第4回社会教育委員の会議 |
| 日 時 | 令和4年3月24日(木) 午後1時30分～午後3時30分 |
| 場 所 | 中棟4階 第2委員会室 |
| 出席者 | 委員 山口、小澤、荻上、南、檜枝、赤池、天野、内山、笹井 区側 生涯学習担当部長(教育委員会事務局次長)、 教育委員会事務局庶務課長、生涯学習推進課長、 社会教育推進担当係長(社会教育主事)、 教育連携担当係長(社会教育センター社会教育主事)、管理係主査 |
| 配付資料 | <p><配布資料></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 令和3年度第3回社会教育委員の会議 会議記録(案) 2 「郷土博物館」・「柿木・高円寺・西荻図書館」の休館期間を延長し、「子ども・子育てプラザ」を再開します(4年3月3日) 3 第7回「すぎなみサイエンスフェスタ」実施概要について 4 「杉並区教育ビジョン2022」推進計画(案) <p><参考資料></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「杉並サイエンスコミュニケーション」5号 2 年中行事だより 3 青少年委員だより 第78号 4 令和3年度青少年委員実践収録 5 なみすく2022年春号 6 東京都生涯学習審議会 建議 7 とうきょうの地域教育 No.144 8 とうきょうの地域教育 No.145 9 博物館法の一部を改正する法律案の概要(文化庁) 10 社教情報 No.86 |
| 会議次第 | <p>I 報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 会議録の確認について 2 BCP(業務継続計画)発動による社会教育施設の運営について 3 「すぎなみサイエンスフェスタ」実施概要について <p>II 協議事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 検討課題について <ol style="list-style-type: none"> (1)「杉並区教育ビジョン2022」推進計画(案)について (2)今後の検討課題について 2 令和4年度の予定について |

(意見要旨)

○生涯学習担当部長挨拶

昨年来、区全体の基本構想とともに、新たな教育振興基本計画となる教育ビジョン2022とそれに基づく推進計画や、様々な教育に関わる計画を策定する中で、キーワードとして、今後の人生100年時代をどう生きていくかというのが、様々なところでとりあげられています。区市町村教育委員会は、義務教育が中心になりがちですが、義務教育後の時代を豊かに生きていくためには学びが必要であるということで、いつでも誰でも学べて、学び直しのできる環境を整備していかなければなりません。また、そこに人が関わって、集って、様々な学びをして、その学びを他の方々に還元していく、そういう学びの贈り合いをすることによって、杉並区も豊かになっていくという視点で教育ビジョンを策定しました。この環境整備という中で、家庭、地域、学校の橋渡し役として担っていただいているのが社会教育委員の皆様だと思っています。より多くの区民の方々が様々な学びに関わり、生きがいを持って豊かに生きられるように、皆様のご協力を得ながら、杉並区社会教育を豊かにしていきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○社会教育推進担当係長（社会教育主事）

（配布資料および前回の会議録の確認）

○生涯学習推進課長

（BCP（業務継続計画）発動による社会教育施設の運営について説明）

○社会教育推進担当係長（社会教育主事）

（すぎなみサイエンスフェスタのオンライン開催部分の報告）

○議長 メインのテーマ「「杉並区教育ビジョン2022」推進計画（案）について」の教育委員会での概要報告をうかがって意見交換をしたい。

○教育委員会事務局庶務課長

（杉並区教育ビジョン2022推進計画（案）について説明）

○委員 社会教育士の育成・活用については、どういう構想か。

○生涯学習推進課長 社会教育士を活用した学びの支援等については、社会教育主事が中心となって、令和5年5月にリニューアルオープンする社会教育センターを社会教育士のネットワークの拠点にしようと考えています。

○委員 関連して、地域学校協働活動推進員の配置が次年度からというのがあって、社会教育士とも連携しながら、いろいろ展開できるのではないかと期待もあるが、制度としてはどのように成り立たせていくのか。

○教育連携担当係長 地域学校協働活動推進員には地域学校協働の施策に協力をしていただきながら、その区域全体や区内全体を見渡して、取組の趣旨を地域の方々に理解をしてもらうことや、次世代の学校地域コーディネーターを発掘するため、コーディネーター同士の意見交換の場をつくるようなことを期待しています。

○委員 基本計画の下にひもづいている各事業の計画内容と計画の指標が必ずしも一致していないが、指標はどのようにつくられているのか。取りやすい指標で、その進捗状況を把握しているようにも感じられるが、基本方針の中で最も大事なところがこの計画の指標からは外れていないか。

○議長 社会教育や生涯学習の、しかも学習の質が主題みたいになるとすれば可視化が指標化の前提になり、したがって部分的というか抜き出して

指標化せざるを得ないのではないか。指標についてある程度妥当性を持っていれば、それでいいのではないかと個人的には思う。

- 委員 変わる余地が含まれているかどうかということがすごく大事なので、説明で触れていた柔軟性、変更可能性を確認しておきたいと思った。
- 生涯学習担当部長 ご意見を踏まえ、いい指標があれば、柔軟に対応してまいります。アウトプットの指標は結構できるのですが、アウトカムの指標は難しい部分もあり、指標と事業が合っていない部分については、これからも引き続き検討してまいります。
- 委員 基本方針を立てるに当たって、2012の時とどう変えているか。
- 教育委員会事務局庶務課長 教育ビジョン自体が大きく変わり、目指すべき人間像を定めない、目標というような言い方もしていないことがあります。方針については、四つの方針を定め、人生100年時代を踏まえ、方針1は、主にすべての子どもたちが学び続ける力ということで、学校教育を中心に、方針2は、大人も子どもも、すべての人たちが学び続けるということの支援を、方針3は、そういう教育の場を、広げる、つくっていくためのことを、方針4は、そのための人づくりとか仕組みづくりをしていこうというような四つの柱を立てて考えたところが、今までの推進計画とは違っているところだと思います。
- 委員 「しあわせを創る」という言葉から、自分だけではなくて全ての人たちのことをいつも考えていくという教育がこれから進んでいくのだと思えるものだと感じるができる。
- 委員 新しいビジョンの中で新しい概念や実際の行動が生まれてつながっていくといいと思う。評価や指標は必要だが、事業計画を立てて、PDCAを回してみたいな前提ではなく、推進計画をきっかけに、やってみることを区全体として許容していくような空気づくり、それができる杉並区のようなことになっていけたらいいと思う。
- 委員 量的な評価になった途端に、教育は痩せ細ると思うので、評価というのは、よっぽど慎重に考えていかないといけない。社会教育の方から見ると今度の教育ビジョンは本当に素晴らしいが、戦略的にやっていかないとなかなか浸透しない。
「学校施設を活用した学びの拠点づくり」については、地域に開かれる施設と、地域の人でも入ってきてほしくない場所というのをうまく切り分けられるような、新しい校舎にする時にはそういうことを十分に配慮したものにしてほしい。
- 生涯学習担当部長 学校を開いていきたい一方で、子どもたちの安全を守らなければいけないということで、なかなか入りづらいところがあります。区民の方に来ていただき学校を知ってもらいたいということでは、今後、新しく造るところにつきましては、区民の方に活用していただきやすくできるようにしていきたいと思っています。直近の例として、高円寺学園については、アリーナですとか校庭ですとか、全部、区民の方に開放しやすいようにいたします。そのほか音楽室、理科室なども動線をつくる段階で切り分けています。
評価の関係につきましても、やはりこのビジョンをつくるに当たり、目標を立てるために小さくなっていくPDCAではなくAARという考え方に立ち、まずはやってみて、修正していく。子どもはこうあるべきではな

くて、大切にしたいものは何か、それをするためにいろいろやっ払いこうというのが新ビジョンの台本になっておりまして、なるべくそれに引き寄せられるような形で推進計画をつくるようにしており、計画である以上は指標をつくらなければいけないものの、今後の10年は柔軟にいろいろ見直しながら進めていきたいというふうに考えています。

- 委員 四つの基本方針、一人ひとりの学びを応援する、一人ひとりの幸せを応援するとなっていて、そういう方向に変わっていくのを杉並区から発信していけたらと受け止めている。

最近の保育園は、大人が強制してやらせる保育ではなく、子どもたちが自分たちでやりたいことを見つけ、それを探求するのを保育士が見守り、その子の能力に合わせて、ちょっと違うまた視点を入れる形に保育自体が変わってきていて、その結果、子どもたちが能動的に生き生きと活動しているというような状況を目の当たりにしている。小学校、中学校、公立の学校自体の在り方も、もう少し多様性を持っていくことによって、一人ひとりの幸せ、学びの力を止めないということを実現できる時代に来ているのではないかと。「変われるチャンスが来た？」と、受け止めている。

- 議長 ビジョンに基本方針1～4とあるが、よく読むと、2～4は生涯学習の話であり、これに対応して行政も我々も、どのような政策とか事業とかをやっていくのかというのは、結構大変な課題である。

- 副議長 デジタルによって、人に与える影響も大きくなり、脳の作りも恐らく相当変わってくるのではないかとと思われる。既に、今の大学生は、アナログの時計の見方が分からないとか、倍速のスピードで動画をどんどん頭に入れていくとかがあって、すでに脳の作り自体に影響を与えるほど変わってきていると思う。

- 議長 今後、機械に人間が合わせざるを得なくなっていくと人間に残るものは、人が育つとか、人が教えるとか、人が高め合う、磨き合うみたいな、そういう学びの部分ではないか。社会教育をどうしたらいいのか、よくできているビジョンだと思うが、これを実現していくために、区民として社会教育の活動をどうするのか、あるいは社会教育行政として、あるいは生涯学習振興行政としてどうしていったらいいのか重要である。

- 委員 学校は学び舎だが、その学びというのは、いわゆる知識的な部分ではなく、いわゆる知恵の部分として、どうやって今度は人と関わっていくかという部分を唯一できる場所が学校になってくるのではないかと。

社会教育の在り方についても、みんながそれぞれいろんなことをやっ払いいくという形で集まるのか、それともある目的のために全員が集まってくるのかというのが、これから分からなくなってくるという感じはしている。学校も含めた教育という在り方が、個人レベルに視点を置いたものになるのか、それとも、集合体として考えていくというものにしていったほうがいいのか、そこが今、岐路になっているのかなという感じがする。

- 委員 社会教育も、勝手なことをやる時代が来ると、逆にみんなで目的を持って集まるという、コミュニケーションの大切さみたいなものが、重要になっていくのではないかと。

- 議長 総合性というかインタラクティブな関係性みたいなところがとても大事で、人が集まらないとできない。文化的な価値がそこでつくられるみたいなところがある。

- 委員 学生たちの中には先生、友達とのコミュニケーションを取りたい意欲がすごく強い。基本計画の中にはICTと入っているのに、その実行計画の中にICTの内容が含まれていない。指標の中のどの項目にも、ICTに関わっている部分がないということには違和感がある。
- 委員 「しあわせ」という単語をどう考えていくかが大事である。
- 議長 今回の推進計画はかなり画期的なもので、私の見立てでは、要するに国家、社会として、あるいは東京都として、あるいは杉並区としてこういう人材を育成する、あるいは学校としてこういう人材を育成するという大目標があって、それに基づいて教育をするというのは、もうやめよう。第三者が幸せとか生きがいとかというのを提供するのではなく、自分がそのために努力する、その環境を教育行政は整備するというように読める。特に生涯学習、社会教育にいる側として、徹底した学習者中心主義みたいなのがあって、そのときに第三者である我々はどういう形でやらなきゃいけないのかと考えることが多い。
- 委員 自分で人生を選び取ってきたという自己決定権が幸せを決めている、主体性を持って生きてきた人の幸せ度数が高いのは、納得できる。親は自分の思ったように子どもが育ってくれると幸せと思いがちだが、本当に幸せを願うのであれば、子どもがしたいことを応援できる親でありたいと皆さんと話し合っている。
- 議長が言われたように、幸せを追求するというのは、自分の道を自分の足で歩く、そういう仕組みをどうやってつくっていったらいいのかというところをこのビジョンで決められていくのであれば、非常に面白いものができると思った。
- 委員 例えば幸せという言葉を使うとすると、幸せの定義とかが多分大きく変わってくる。ウェルビーイング、ビーイング（どうあるか）は、もうそれぞれでいい、でも本当の意味で定義の転換みたいなところで理解できるか、受け入れていけるかというのがすごく大事なのかなと思う。一方で、デジタル化が進んでいく中で、違いがより見えにくくなっていくのかなというふうに感じている。その見えにくい中での違いみたいなのにどうやって気づいていけるか。それを、ちゃんと社会としても、時にはセーフティーネットのような意味も含めて、何か気づいていけるかというところを、それを受け入れていけるか、みんながそれを認め合っていけるか、が大事なポイントになるのではないかな。
- 委員 自分の幸せは自分ではもちろんだが、人の幸せは取りあえず踏みにじって自分の幸せだけをとると共存はできない。だから、これまでの当たり前が当たり前でなくなることを念頭に置いて、変化していかなくてはならない。だからこそ、社会教育士であり、こうやって話し合うというのが、やっぱり必要であると思う。
- 管理係主査 皆さんの意見を参考に、今後、社会教育士の育成と、それをどう地域の皆さんと一緒に社会をつくっていくのか、いろいろな意見を聞かせていただけて、来年度の検討に生かしていきたいと思います。自分の幸せと周りの幸せを両輪にみんな社会をつくっていくのを常に考えながら、仕組みをつくっていかねければと改めて考えさせられました。
- 議長 本日はここまでとして、また、次回に向けて意見をまとめていきたいと思う。ありがとうございました。